

III . 調査研究の結果（3）

～事件を基にした住民調査の結果～

1. 今回住民調査研究の目的と方法

（1）目的

定連続少女殺傷事件の発生した地区内に居住する住民を対象に面接調査を実施し、市街地環境が犯罪発生に及ぼした影響度等について、住民の側から明らかにする。

（2）方法及び調査対象者

共通の項目について、通行中の女性に面接し、回答を求めた。調査期日は、平成10（1998）年10月23日。

調査対象者は、同地区内に居住し、女子小学生を持つ専業主婦15名。

調査対象数が少なく、統計学的に有効な数値とはならないが、参考意見として取りあげ説明する。

2. 調査結果

（1）居住継続意識

「ここに、続けて住みたいか」について回答を求めると、「続けたい」という者が4名（26.7%）でしかないのに、「住み続けたくない」という者は9名（60.0%）と大多数を占めた（表3-1）。

「住み続けたくない」の理由としては、「買物等何かと不便」と「子供の教育」が各7名（住み続けたくない者の77.8%）と最も多い。「あの事件があったから」という者も5名（55.6%）を占めて多い。

しかし、この「あの事件があったから」を除くと、少なくとも9名中の4名は、この事件があろうと無かろうと「住み続ける気

はない」者である。

さらにいえば少なくとも全調査対象者の15名中の4名(26.7%)と、ここに住んでいる小学校に行く女の子を持っている若い主婦の4人に1名は、「あの事件があろうとなかろうと」ともかく普段から「ここから移って行きたい」と思って生活している者であることが指摘できる。

こうした定住意識の希薄さが、ここは自分たちの地域であるという領域感や、共に周りを見守りあって生活しようという注視感、現場実査で指摘したが点在する管理不十分な小空間(空き地)に対する有責感を希薄化させ、結果として、今回の様な連続少女殺傷事件を発生させる隠れてはいるが基本的な要因としてあった、とも考えられる。

表3-1 居住継続意識

	はい	いいえ	分からない	合計
回答者数	4 (26.7)	9 (60.0)	2 (13.3)	15 (100.0)

(理由・MA)

- ・自分の家がある = 2名
- ・自然が良い = 3名
- ・友達が居る = 2名
- ・住んできた = 1名

(理由・MA)

- ・交通が不便 = 4名
- ・買物等何かと不便 = 7名
- ・子供の教育 = 7名
- ・主人の仕事の時間 = 2名
- ・あの事件があったから不安 = 5名

(2) 今後も同じ様な事件が起ることの不安

「これからも同じ様な事件が起きると不安に思っているか」について回答を求めると、「非常に不安」という者が6名(40.0%)、「不安」という者が8名(53.3%)を占め、両者を合わせると15名中の実に14名が程度はともかく「今後も起きるのではないかと不安に感じている(表3-2)。

事件発生後、まもない時期であったということが作用していることは十分に考えられる。しかし、小学校に通う女子を持つ主婦の15名中の14名までもが、少女が殺傷されるのではないかと、そこまで行かなくとも少女や少年、さらには女性や老人といった犯罪弱者を被害対象とする事件が起きる「不安」を感じて生活していることは非常に問題な状況である、といえよう。

不安が近隣への不信を産み、不信が近隣への無関心を産み、無関心が不審者の侵入を容易にさせ、侵入の容易さが事件の発生を現実のものとさせかねない。不安解消のための早急な対応が必要といえる(写真24)。タンク山から歩いて5分ほどの所に、事件後も立てられている看板)。

表3-2 今後も同じ様な事件が起きる不安

	非常に不安	まあ不安	不安でない	全く不安でない	合計
回答者数	6 (40.0)	8 (53.3)	1 (6.7)	0 (0.0)	15 (100.0)



写真 2 4 首を切断したタンク山から歩いて5分ほどの所に、事件前から事件後も立てられている看板。

(3) 事件後の不審事案への接触状況

本事件後も、同地区内で女子小学生を対象とする（事件になりそうな）「変なこと」が、身の周りであったか否かを質問した（表3-3）。

「見たことも聞いたことも無い」という者は15人中の3人（20.0%）に過ぎない。残りの12名（80.0%）は、事件後も女子小学生を対象とする「変なこと」に遭遇している。実際に「見た」という者は1名、「見たし聞いた」という者が4名を占めるが、実際には「聞いた」だけという者が7名と多数を占める。自分の子供から聞いたという者の多いことも考えられ、「聞いた」ということも、十分に問題にしなければならない。しかし同時に、こうした風聞の「噂の世界」が広がり、それがる住民間の相互不信が高まり、さらなるコミュニティの崩壊が進むことも考慮しておかねばならない。

その「変なことの」の内容を見ると、ストーカー的で特に女性の恐怖心の強い行為から、事件となる寸前の行為、あるいは、そ